

【2020 年度/総合基礎科目領域/外国語科目群】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
英語 コミュニケーション			選択必修	1	1.2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
ジョン 阿部 アギナルド		講師控室	john.aguinaldo		授業またはメールにおいて 質問等受付	
授業の目的・概要		<p>プレゼンテーションは情報や自己の意見、提案、研究の成果などを決められた時間内に他者に伝える表現法である。グローバル化が進む中、英語でのプレゼンテーション能力を身につけることはますます重要になってくる。本授業では、英語で行うプレゼンテーションの技能を修得することを目的とする。課題学習、遠隔同時双方向型授業を通し情報収集とそのまとめを行いプレゼンテーションの原稿作成の方法や、プレゼンテーションの基礎知識と技能を説明する。自己の知識や意見、情報を相手に伝えるための効果的な情報のまとめ方やプレゼンテーションに必要なソフトの操作技術を指導し、グローバル化に関連するテーマを課題に実践的なプレゼンテーション能力や質疑応答の方法も習得できる内容となっている。</p>				
学習上の助言		プレゼンテーションの質を高めていけるよう、同時双方向型授業には積極的に参加してほしい。				
教科書		教科書は指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				
参考書		特になし。				
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	英語で情報を収集し効果的にまとめることができる。				HSU(2)	
②	パワーポイントを使った英語プレゼンテーションができる。				HSU(2)	
③	効果的な英語プレゼンテーションをするための要素を理解し応用できるようにする。				HSU(2)	
④	プレゼンテーションにおいて英語で質疑応答ができる。				HSU(2)	
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーションシラバス (授業内容、成績評価法等) 及び授業の進め方について理解する。		課題送付・提出・フィードバック	課題①他者に質問する方法を考える。		0.35
2	課題を通してインタビューの方法―情報を得る、質問をし、質問に答える練習を行う。		課題送付・提出・フィードバック	課題②自己紹介の方法を考える。		1
3	自分について話そう―課題を通して自己紹介の方法やアウトラインの作成法を学びスピーチ練習を行う。		課題送付・提出・フィードバック	課題③プレゼンテーションの準備をする。		1.7
4	自分について話そう―課題を通してプレゼンテーション① (自己紹介) 質疑応答の方法を学ぶ。		課題送付・提出・フィードバック	課題④質疑応答の復習をする。		1
5	スピーチの基礎―課題を通して音読、聞いて理解する、発音、アイコンタクト、ジェスチャーに関する演習を行う。		課題送付・提出・フィードバック	課題⑤音読、発音の復習をする。		1
6	プレゼンテーションの基礎―課題を通して良いプレゼンテーションの要素や条件を学ぶ。学んだ内容を確認し、応用する。		課題送付・提出・フィードバック	課題⑥プレゼンテーション技法の復習をする。		1
7	日本・日本人・日本文化―絵や写真を見て英語で描写したり、説明したりする。		課題送付・提出・フィードバック	課題⑦課題プリントを復習する。		1
8	日本・日本人・日本文化―情報収集とアウトライン作成をする。意見を述べる、賛成反対を唱える方法を学ぶ。		同時双方向型授業	アウトラインを完成させる。		1
9	日本・日本人・日本文化―パワーポイントの作成法を学び、スクリプトを作成する。効果的なプレゼンテーションの要素や条件を確認しプレゼンテーションに備える。		同時双方向型授業	スクリプトのドラフトを完成させる。プレゼンテーションの練習をする。		1.7
10	日本・日本人・日本文化―プレゼンテーション② 質疑応答、クラスメートのプレゼンテーションを評価する。		同時双方向型授業	技法の復習をする。		1
11	異文化について学ぶ―他文化、グローバル化についてプリントを使って学ぶ。		同時双方向型授業	課題プリントを復習する。		1
12	異文化について学ぶ―グループで情報収集を行う。比較の英語表現やテレビ等のプレゼンテーションから効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。		同時双方向型授業	情報収集を行う。		1
13	異文化について学ぶ―情報収集、整理、アウトライン作成を行う。		同時双方向型授業	アウトラインを完成させる。効果的視覚資料を検索する。		1

【2020 年度/総合基礎科目領域/外国語科目群】

14	異文化について学ぶ-効果的な視覚資料や統計データを織り込みパワーポイントとスクリプトの作成を行う。効果的なプレゼンテーションの条件を確認する。	同時双方向型授業	スピーチスクリプトに沿って発表の練習をする。	1			
15	最終プレゼンテーションを行う。	同時双方向型授業	これまでの授業を復習する。	1			
試	試験						
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	40	60	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	10	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	10	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	20	0	0	30
	コミュニケーション力	0	0	10	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	10	10	0	0	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント					フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	3 回のプレゼンテーション原稿を評価する。パワーポイントの原稿とスピーチの原稿両方を提出する。1 回目の原稿が 5%、2 回目 15%、3 回目が 20%、合計 40%とする。情報内容の充実度、明確さ、論理性を評価する。3 回目の評価はグループとしての評価も観点となる。			スクリプトの添削、返却	
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①		3 回のプレゼンテーションを行う。1 回目は自己紹介、2 回目は日本に関する課題、3 回目は異文化に関する課題について、ペアまたはグループでプレゼンテーションを行う。配点は 1 回目 10%、2 回目 20%、3 回目 30%、合計 60%とする。プレゼンテーション技術を評価する。(3 回目のプレゼンテーションはグループとしての評価も観点となる。)			プレゼンテーション後にピア・フィードバック、自己評価を行う。教員評価を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>遠隔授業では Teams を使った同時双方向型授業を行う。課題ダウンロード、CD リスニングなどを行うので授業時は通信容量が無制限の WiFi 環境を奨励する。様々な課題の提出期限は厳守すること。また授業態度に問題がある場合は退出してもらう。</p> <p>尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p>							